

# 私は、慢性腎臓病 (CKD) なのだろうか？ 自分で確認してみましょう

## 慢性腎臓病とは

- ① 尿異常、画像診断、血液、病理で腎障害の存在が明らか  
— 特にたん白尿の存在が重要 —
  - ② GFR < 60ml/分/1.73m<sup>2</sup>
- ①、②のいずれか、または両方が3ヶ月以上持続する

## ④ CKD発症あるいは腎障害進行の危険因子はどうでしょう

- 高齢(70歳以上)
- 慢性腎臓病の家族歴
- 低体重出生(2,500g未満)
- 現病歴
- 急性腎不全の既往
- 片腎、腎臓の奇形等
- 服薬歴
- 喫煙

既往歴・現病歴	過去の検診での尿所見の異常・腎機能の異常 妊娠高血圧症候群(高血圧・蛋白尿・浮腫) 高血圧、耐糖能異常、糖尿病、高尿酸血症 肥満、メタボリックシンドローム、高脂血症 膠原病、全身性感染症、上気道感染(扁桃腺) 尿路結石、尿路感染、前立腺肥大
服薬歴	常用薬(特にNSAIDs) サプリメントなど

- ① 健診で、「たん白尿」はありますか？
- ② 血清クレアチニンからGFRを推算します(改訂MDRD簡易式)
- ③ GFRから自分のステージを確認 GFR90以上は3つに区分されてます

## CKD(慢性腎臓病)の病期分類

予防の段階	ステージ	推算GFR (ml/分/m <sup>2</sup> )	腎臓の病態	腎障害の有無	腎疾患の危険因子	慢性腎臓病の判定	腎臓内科で行われること
予防可能な時期		90 ≥	正常のGFR	なし	なし	なし	
	0	90 ≥	ほぼ正常のGFRだが、腎疾患になりやすい危険因子がある	なし	有		→慢性腎臓病(CKD)のスクリーニング検査を行う →危険因子の減少に努める
	1	90 ≥	ほぼ正常のGFRをもつ腎障害	有	なし		〈慢性腎臓病(CKD)の診断と治療の開始〉 →併発する疾患の治療 →慢性腎不全を遅延させる治療 →危険因子を軽減する治療
難しい時期	2	60 ~ 89	GFRの軽度低下	有	有・無		慢性腎臓病進行の予測
	3	30 ~ 59	GFRの中等度低下	有	危険因子の有無は関係ない		慢性腎臓病合併症の確認と治療 (貧血、血圧上昇、続発性上皮小体機能亢進症など)
	4	15 ~ 29	GFRの高度低下	有			透析または移植を準備する
	5	< 15	腎不全	腎不全			透析または移植の導入 (もし尿毒症の症状があれば)

- ⑤ 私は？
- ⑥ 腎障害を進めないために何が必要でしょう

★ 微量アルブミン尿検査など  
腎臓のCT検査など

重要  
ステージ3の中でもGFR < 50のときは、腎臓専門医にかかる時期です

尿毒症の症状 資料参照

慢性腎臓病 (CKD)